上外川学習教育林の整備について
～妖精のすむ森をめざして～

岩手北部森林管理署　浄法寺森林官　田口 暁史
新町森林官　　木村 雄大

１　はじめに

近年森林環境教育や森林ふれあいに関して需要が増大してきております。
林野庁においても国有林をフィールドとした国民参加の森林づくりの推進を図る為、当署含め全国１３箇所で「子ども農産漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域を設定しています。

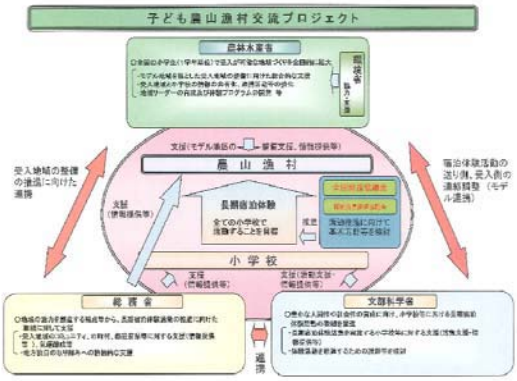
受入モデル地域になっている岩手県葛巻町は、管内の東部に位置し、くずまき高原牧場を代表とする酪農や林業を基幹産業とし、国有林のある上外川地区に１２基の風力発電機が建設されるなど「クリーエネルギーのまち」を推進しており、また、町をあげて体験学習にも取り組んでおります。

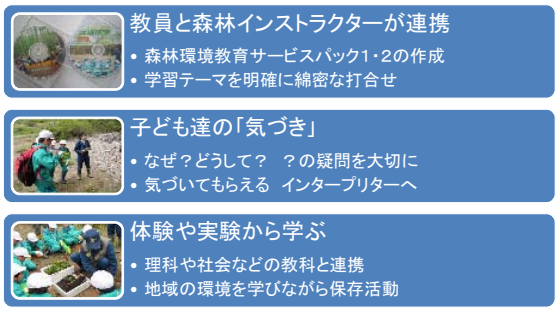
その体験学習の中に当署の森林環境教育のノウハウを組み合わせ、実際に体験学習を行っているいる方々の意見を頂き、この上外川国有林を使って地域全体の魅力を最大限に発揮される学習教育林の整備を行いました。

２　課題を取り上げた背景

平成 20 年 3 月学習指導要領の改訂にともない、「集団宿泊体験や自然体験活動」を通した児童の内面的な道徳性の育成を目的に、農水・文科・総務の 3 省連携による、「子ども農山漁村交流プロジェクト」が本年度実施された。当署含め全国１３箇所で「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域を設定し、フィールドの整備や学習・体験プログラムを作成するなど、森林環境教育の推進に取り組んでいる。

また、現在岩北署でも安比高原ブナ二次林など身近な天然林を舞台に市内の小学校５年生を対象に年４回程度の森林教室を継続して行っており、森林環境教育がより効果的に進められるように平成１７年に森林環境教育サービスパックを作成し、体系的な森林環境教育に取り組んでいます。





そこで、今までの岩北署が行ってきた森林環境教育を取り入れながら人工林を主体とした、「林業・農業・漁業・環境」をテーマに地域の特性を行かす一環した森林環境学習が可能なフィールドを、有識者や活動する団体・地域の意見を取り入れながらより多くの人達に利用してもらえるように整備をすすめていきます。

３　研究の方法及び経過

（１）モデル地域（フィールド）の設定

（２）農業・漁業・環境等の他産業との連携

（３）利用促進に繋がるプログラム作成やフィールド整備

この３つのポイントで整備を進めていくことにし、その上で、地域の意見を反映させ、多くの人達に活用して貰う為に、有識者や地元 NPO 等を交えて検討委員会を作成しました。

検討委員会の開催

・地域でより多くの人に活用してもらいたいと考え、有識者や地元NPOなど交えて検討委員会を開催し、意見などを頂く事にした。

４　研究の結果

（１）モデル地域の設定

検討委員会で出された意見

・広葉樹主体のフィールドよりもカラマツ人工林を重点的に見学できるように整備してほしい。

・カラマツ林はヨーロッパでは妖精の住む森と言われていて、春の新緑から秋の紅葉といった美しい景観を創りだしている。この美しい葛巻のカラマツをもっと PR 出来るような所にしてほしい。

・カラマツの人工林を活用し、人工林であっても手入れをすることによって環境保全に寄与していることに気付いてもらう場としてほしい。

・上外川地区は、馬淵川の源流が流れているので、ここで子ども達が水とふれあい、遊びながら学べる場を整備してほしい。

そこで、出された意見からモデル地域については、ブナ等の広葉樹ではなく、カラマツ林とし、新緑と紅葉が観察できる場所に設定しました。

カラマツ林を設定することによって、林業を通じて整備された人工林においても、公益的機能が高いことをうったえる場として活用できます。

また、このフィールドを利用し、地域の伝統的な森林利用の伝承を指導者養成に組み入れることとしました。

モデル地域（フィールド）

春の新緑

秋の紅葉

①ブナ等の広葉樹ではなく、カラマツ林とし、新緑と紅葉が観察できる場所に設定。

②林業を通じて整備された人工林においても、公益的機能が高い事をうったえる場所として活用できる。

③地域の伝統的な森林利用の伝承を指導者養成に組み入れる。

（２）農業・漁業・環境等の他産業との連携について

検討委員会で出された意見

・森と自然エネルギーと生活が結びついているということを気付かせる体験メニューにしてはどうか。

・遊歩道を作り、カラマツ林や牧草地を通って、最後はクリーンエネルギー事業を行っている風車にたどり着くような、一貫して学べるコースにしてはどうか。

・上外川地区には、風衝荒廃地を治山工事によって復旧している箇所がある。そこで森林の果たす国土保全機能の体験学習を行ってはどうか。

・山は海の恋人と言われる程林業と漁業の結びつきが大きい事を体験を通して学ばせてみてはどうか。

今まで国有林主体の体験学習だと限られたテーマでしかアイデアができませんでしたが、検討委員会を実施したことにより、地元の声を生かした取り組みと新しいアイデアが生まれ、交流プロジェクトモデル地区として林業・農業・漁業・環境等の上外川地区の特性を

活かした、一貫した自然体験活動が可能となりました。

国有林主体だと
体験学習のテーマが限られる

↓

検討委員会を3回実施
地域の特性を活かしたアイデアが生まれる

↓

林業・農業・漁業・環境等の連携した
自然体験活動が可能となった

（３）利用促進につながるプログラム作成やフィールド整備

これまで検討委員会で出された意見を元に、４つのフィールドを設定し、それぞれ親しみのもてる名前をつけて整備しました。

フィールド①妖精の住む森

カラマツ人工林０．７４ HA を刈払いを行い整備し、ノコギリを使ったカラマツの間伐体験や薪作り・巣箱かけ等が体験できます。

フィールド②氷河期からのイワナの楽園

上外川に流れる中の沢は、葛巻町、二戸市などを通って太平洋へと流れる馬淵川の源流のひとつで、イワナの生育する川です。
ここでは、渓流生物の観察・水力発電の学習等が体験できます。

フィールド③天狗の相撲取り場

ここは地元の言い伝えで、「天狗の相撲取り場」と呼ばれる風衝荒廃地があり、Ｓ６０年～Ｈ１９年までに実施した、治山事業による植生回復状況の観察ができるフィールドとなっています。
植生回復したカラマツ林の中には、治山事業によって作られた石垣があり、子どもたちの「気づき」のポイントとなります。

フィールド④カラマツ探検路（自然観察路）

この探検路は、妖精の住む森やイワナの楽園のある場所からスタートし、天狗の相撲取り場や牧草地を通って風車までの約２．３ｋｍの自然観察路として、木製階段やウッドチップを用いて整備しました。

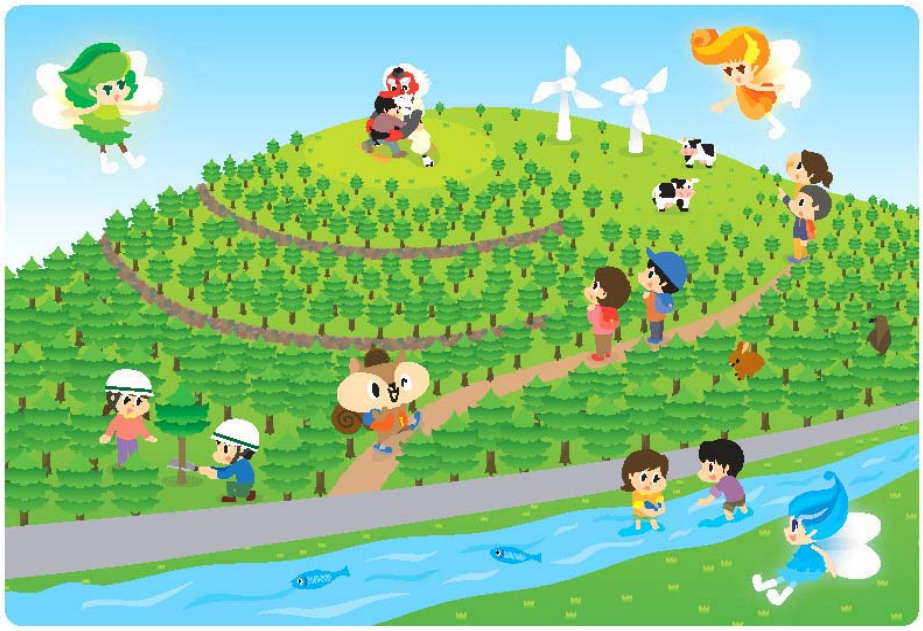
このように検討委員会での意見を取り入れながら、利用促進に繋がるようなフィールド整備や体験メニューの作成を行いました。
◎取り組みの成果としては
・これまで岩北署が取り組んできた森林環境教育のノウハウを生かせたこと。
・検討委員会を構成したことで、地元の意見やアイデアを生かせたこと。
◎問題点として
・検討委員会の組織作りについて、これまで地元有識者や団体との繋がりが少なかったために、意見の集約や日程調整に苦労した。
・完成したフィールドを活用して森林教室を実施する予定でしたが、完成時期が１１月と遅かったために来年度実施になったこと。
・トイレや案内版などの設置が必要であること。

５　考察
地域の特性を生かした産業との連携によって、多くの人たちに利用してもらえるように整備してきたこの学習教育林で、子どもたちに多くの「気づき」を発見してもらい、子どもたちの目には妖精の住む森に映るような学習教育林にしていきたいと思っております。

６　まとめ

３省連携による本プロジェクトのモデル地区の作成に取り組んだことにより、岩北署での森林環境教育のノウハウや、地元の意見やアイデアを生かせた事がプロジェクトの成果に繋がったと考えます。

来年度以降は、今回整備したフィールドや体験メニューを元に、インタープリター養成研修を実施するなど、実践しやすい体験学習プログラムの作成に取り組んで行きたいと思います。

今後、本事業の推進に当たっては、学ぶ子どもたちの視点を意識した事業に取り組むとともに､地域の意見を生かした事業が本プロジェクトの成功モデルになると考えられます。

上外川学習教育林